

28 Feb. 2008



第33号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒162-0842 東京都新宿区

市谷砂土原町 1-2-34KSKビル3F

編集：JAAGA事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：http://www.jaaga.jp/

平成19年度第2回JAAGA講演会

空幕防衛部長 平田空将補 「米軍の変革と空自の防衛力整備」



JAAGA lecture by Maj.Gen.Hirata

平成19年11月15日（木）、午後4時からグランドヒル市ヶ谷において、空幕防衛部長平田英俊空将補を講師として平成19年度第2回JAAGA講演会が開催された。演題は「米軍の変革と空自の防衛力整備」という最新のものであるため関心も高く、約150名の会員が聴講した。講師は東京大学工学部、東京大学大学院航空工学修士課程を修了し、航空自衛隊に入隊され、その後、米国スタンフォード大学大学院（航空宇宙工学）博士課程、米国国防総合大学修士課程を履修、航空自衛隊においては部隊指揮官・空幕の要職等を歴任され、平成19年8月に現職へ就任された。講演概要は以下のとおり。

（源常務理事記）

講演概要

最近、日頃の業務を通じて、「日米関係は少し変になってきているのではないか？」と感じている。日米同盟の将来に影を落としそうな事柄が、日米双方において静かに進んでいる状況に危惧を覚えつつ、現在進行中の再編協議にどう立ち向かうべきかについて、考えるところをお話したい。

1 はじめに

1994年に空幕防衛班に勤務して以来、日本の防衛は日米というファクター抜きに考えられないことを幾度も痛感させられてきた。しかも、以前は、装備品を通しての関係だけであったものが、次第に運用面の関係も強化され、しかも安保政策でも、また地域的にも広がりを見せている。まさに、この10年余で世界の日米同盟へと変革したのである。冷戦が終結し、テロや大量破壊兵器の拡散といったグローバルな21世紀型の脅威が顕在化する中で、日米の双方が、両国の協力関係を前提として自国の軍事態勢のあり方を見直してきた。米国サイドには、ダウンサイジングとRMAに対応するため、全世界レベルでドラスティックに軍の変革を進めたい意向が存在した。この実現には、同盟国や地域のパートナーとの協力が必要不可欠であることから、わが国政府との間でも、いわゆる米軍再編協議が始められたのである。

2 対米依存の現実

国内には、何でも米国に追従するのはけしからん、毅然として日本の主張をすべきである、対米依存度は下げなければならないといった主張がある。しかしながら、このような議論は、我が国の置かれた現状への認識と、対米依存を如何にして下げるかという具体論を欠いたまま、感覚的に行われているような感がある。我が国は、いわゆる核の傘の他にも、情報、軍事技術、エネルギー、食料、その確保のためのシーレーン等までも、米国の傘の下にある。仮に、軍事技術の対米依存度を下げるとなると、限られた防衛関係費の中から今よりずっと多額の研究開発費を投入する必要がある。また、そのようにしたとしても直ぐに効果が現れるものでもなく、10年

20年といった長い期間が必要である。当然、米国とは緊密な調整を要し、場合によっては軋轢の生ずることも予期される。対米依存度を下げるということを議論するには、具体的な提案をもって行わなければ、単なる言葉の遊びに終わるばかりか徒に米国との関係を損ねることにもなりかねない。私自身は日本がより自立的方向に向かうべきであると考えているが、良好な関係を維持しつつ目的を遂げるには長期間にわたってぶれることのない国家としての強い意志及び戦略的な対応が必要であり、日本側にはそれが欠けているのではないかと感じている。

3 米軍再編を巡る日米協議

(1) 米軍の再編と我が国の防衛力整備

米軍再編を巡る日米協議は、今のところ、在日米軍の再編ばかりが目立っているものの、この協議の正式名称が「在日米軍の兵力態勢の再編を含む安全保障面での日米同盟に関する日米協議」であるように、本来は、より根本的な世界における日米同盟のあり方を協議するものなのであり、我が国の安全保障戦略、防衛力整備の骨幹に係るものである。

(2) 日米協議の背景

冷戦終結以降、国際的なテロ活動や大量破壊兵器の拡散といった新たな脅威が顕在化し、国際的な安全保障環境が大きく変化した。このため、世界各国で安全保障に係る態勢の再検討が始められ、2001年9月11日に発生した同時多発テロを契機として、その動きは加速化した。2003年11月にブッシュ大統領は、こうしたより蓋然性の高い危険な脅威に、より適切に対処するため、世界規模で展開する米軍の態勢を再編することが必要であるとして、同盟国等と、各国での駐留を含む米軍の態勢の見直しに関する協議を行うよう、政府高官を各地に派遣、いわゆる再編協議を本格的に開始した。一方、当時、わが国でも国際情勢の変化や科学技術の発展といった我が国をとりまく安全保障環境の変化などを踏まえ、「今後の防衛力のあり方検討」を開始していた。04年12月に新たな防衛計画の大綱が策定されたが、そこでは、①我が国への脅威の防止と排除、②国際的な安全保障環境の改善という二つの目標を、①我が国自身の努力、②同盟国との協力、③国際社会との協力という三つのアプローチの統合的な組み合わせで達成するという、基本的考え方を明確にしていた。

(3) 日米協議

このような日米双方それぞれに防衛態勢見直しの動きがある中で、在日米軍兵力の構成の見直しを含む防衛・安全保障に関する戦略について日米協議が始められた。この協議は、まず第一段階として日米共通の戦略目標を明確にし、次に第二段階としてその共通戦略目標達成のための手段について協議して、日米の役割・任務・そしてそのために必要となる能力を明らかにした上で更に、第三段階として、抑止力を維持しつつ地元負担の軽減を図るという方針に基づいて在日米軍の兵力構成の見直しを行うこととされた。本協議は、日米の考え方の違いなどから、なかなか進展しない時期もあったが、初めて日本が主体的に在日米軍基地の見直しに関与する機会を得ることともなった。第一段階の目標とした共通の戦略目標の確定は、05年2月の2+2で成果が発表された。テロや大量破壊兵器の拡散等新たな脅威やアジア太平洋地域における不透明性・不確実性の継続を共通の安全保障環境として認識するとともに、世界的及び地域的な共通の戦略目標を、一国だけではなく日米及びその他の同盟国と協力して追求していくことを確認した。第二段階の目標とした、日米の役割・任務・能力の明確化については、05年10月の2+2において基本的な考え方が「日米同盟：未来のための変革と再編」と題して発表された。また、これと同時に、二国間の安全保障及び防衛協力の態勢を強化するために平時からとり得る不可欠な措置を特定し、実効的な二国間協力を確保するため、本件を引き続き検討することの重要性が強調された。今後は、二国間協力の実効性を確保するために、様々な分野で役割・任務・能力の検討を深化させること及び「指針」の下での二国間協力のみならず、「指針」に示されていない分野でも二国間協力の実効性を強化し、改善していく必要があると考える。第三段階の目標である、在日米軍の兵力構成の見直しについては、昨年5月、実施日程を含めた再編の具体案が取りまとめられた。その際、個別の再編案は、統一的なパッケージとなっていることが明記された。また費用負担については、施設整備に要する建設費その他の費用を基本的に日本国政府が負担する他、これらの案の実施による運用上の費用についても負担するとされた。

(4) 空自関連の再編事業

具体的な再編事業のうち、空自に関連するものについては以下のとおりである。まず第1に、総隊司令部の横田移転である。これは、ミサイル防衛を含め、防空に関して日米司令部間の連携の強化を図るためのものであり、現在府中に所在する航空総隊司令部の他、防空指揮群等の部隊を、在日米軍司令部の所在する横田基地に移転するものである。第2に、将来的な横田管制空域の返還準備である。今後の横田進入管制業務が米軍から移管されることを念頭において、「横田空域全体のあり得べき返還に必要な条件を検討する」ことと、在日米軍と日本の管制官の併置が合意された。これに基づき今年の5月から横田ラプコンには空自の管制官6名が配置されている。第3に、共同訓練の実施である。これは、米軍専用施設や区域の周辺の地元の負担を軽減するとともに、日米共同訓練の機会を拡大し、日米共同運用態勢の強化を図ることを狙いとして、嘉手納、三沢および岩国の米軍機が、千歳、三沢、小松、百里、築城及び新田原の六つの空自基地に展開して、共同訓練を実施するものである。なお、沖縄における在日米軍施設や区域の共同使用は、運用面で制約がある自衛隊の訓練環境を大きく改善するとともに共同訓練や日米の相互運用性の向上を図ることに資するものとなるという考えの下、「航空自衛隊は、地元への騒音の影響を考慮しつつ、米軍との共同訓練のために嘉手納飛行場を使用する」ことが合意をされている。第4に、BMDレーダーの情報共有である。これは、我が国のBMD能力を補完することを狙いとして、米軍のBMD用移動式レーダー、通称Xバンドレーダーを車力分屯基地に配置し、このレーダーによって得られる情報を日米で共有することとしたものである。

4 今後の防衛力整備における課題

米軍の再編協議は、米軍自体を世界的な規模で態勢変換しようとする動きであるが、同時に同盟国にとっても防衛態勢の変革を否応なく強いるものである。日本国内には、感情的な反発が日米関係を影を差しつつあるなか、この協議を通じて関係を再構築し一層の緊密化を図ろうとする努力も着実に進展しつつある。わが国が将来に亘って安定した戦略環境を構築していくためには、この再編協議を日米双方の努力によって確実に結実させなければならない。

わが国の防衛力整備もその基本線に沿ったものでなければならぬと考える。こうした観点から、そのための障害となりかねない幾つかの課題について所感を述べておきたい。

(1) 米国とのパイプの細さ

他国と比較して、日本は、米国との人的なパイプが極めて細い。これはなんとか拡大しなくてはならない。米国における日本や日米同盟に対する理解者が少なく、また、日本においても日米関係や日米同盟の現状、現実に対する理解が不足している。我々自衛官は、日米共同訓練や、様々な面での協議等を通じて日米同盟の信頼性を支えるミリタリー間の信頼関係を強化していくとともに、世論の形成に影響力を有する人々や日米双方の政策決定に関わる文民のリーダーたちにももっと現実を理解してもらい、現実に基づいた議論がしてもらえるよう、情報発信をしていかねばならないと思っている。

(2) 防衛関係費の削減

我が国周辺においては、北朝鮮のミサイル発射及び核開発並びに領土を巡る問題など、依然として不透明な安全保障環境の中、周辺諸国は軍事力を増加させている。そのような中、我が国は依然として防衛関係費の削減を進めているので、我々としても、装備品の一括取得、いわゆるまとめ買いなどを中心とした、装備品調達効率化や、調達業務の適正化を進めるといった努力をしていく必要がある。しかし、その一方で、ここ10年近くにわたり様々な努力を続けてきており、部隊の活力を維持するにも限界がある。周辺諸国の戦力近代化に的確に対応するためだけではなく自由と民主主義を守るため国際社会の一員としてふさわしい役割を担うためにも防衛関係費については、財政的な観点だけではなく我が国周辺そして国際的な安全保障環境を考えた真剣な議論が必要だと思う。

(3) 人的戦力の削減

3点目は、人的戦力の削減への対応である。現在、公務員の総人件費改革の一環として、行革推進法に基づく自衛官の実員の削減が議論をされている。自衛官は、防衛出動等の任務にあたるという特殊性から、特別職国家公務員として位置づけられ、一般職の国家公務員の総枠を縛る総定員法の適用外とされてきた。また、高い専門性を有する航空自衛官の養成には長期間を要し、装備品の維持運用のために

必要な人員で構成されている人員の削減は直接装備品の戦力発揮に影響を及ぼす。そうした事情を踏まえて、自衛官の規模は安全保障の観点から議論されるべきものであり、財政的観点のみに捕らわれた過大な削減は問題である。また、北朝鮮のミサイル発射や核開発、周辺諸国の著しい航空戦力の近代化が推進されている環境下での自衛官の削減は、近年の防衛関係費削減とあいまって周辺諸国に誤ったシグナルを送る可能性もあると危惧している。

(4) 防衛力整備の方向性

4点目は、防衛力整備の方向性についてである。防衛関係費が継続して減額されてきている上に、人的戦力の抑制の議論が進む中で、小規模とはいえ、機能的に完結した航空戦力の造成を目指すのか、あるいは、米軍との共同を前提に、役割、機能分担を進め、一部の機能は整備せず米軍に依存する航空戦力の造成を目指すのかの選択は以前にも増して大きな課題となってきた。

(5) 産業基盤、技術基盤の維持

5つ目の課題は、産業基盤、技術基盤の維持についてである。我が国は、技術面を大きく米国に依存しているが、昨今、米国の技術保護に対する姿勢が強化されて最新の技術を米国から得ることは困難となりつつある。技術力の格差が益々広がっていけば、我が国が自力で装備品を開発、装備することが一層困難になっていくであろうことは想像に難くない。他方、研究開発の資源にも限りがある以上、どの分野に重点を置いて、我が国の技術基盤を維持していくのかについて、しっかりと議論をして、今から具体的な策を講じなければならない。防衛産業基盤、技術基盤は、取りも直さず我が国の国防力そのものであり、単なる産業保護政策としてではなく安全保障の問題として官民一体で取り組むべき大きな課題であると認識している。

5 おわりに

対米依存に対する国民の反発感が日米関係の不安定化要因となりつつある中、現在進行中の米軍再編協議は或る意味、好機でもあると言える。なぜなら、本協議は対話と協力の場をもたらすのみならず、結果的に、米国と共同して数多の紛争を経験してきている英豪と劣らぬ程に緊密な日米の協力関係を構築できれば、それは、我々が希求する将来にわたる安

定した安全保障環境の醸成に適うからである。そのためには、在日米軍再編関連の施策や、共通戦略目標の追求に伴う日米協力における役割・任務・能力の検討などを、着実に推進していくことが必要である。もし、これが暗礁に乗り上げれば、日本に対する大きな失望感が生まれるだけでなく、米国の同盟戦略の見直しまで波及する可能性があるのではないかと危惧している。但し、その際、ともすれば、米国の国益追求に引きずられてしまいかねない中で、我が国の国益をしっかりと主張、追求することが重要であり、こうした姿勢は日米関係を損なうよりはむしろより成熟した同盟を育むものと考えられる。再編協議は、これからが正念場であると言えよう。引き続き実施することとされている役割・任務・能力についての検討や計画検討、更には着実な防衛力整備の努力を通じて、将来の日米同盟をどうするのか、どうしていけるのかという本質的な議論を行って行かねばならない。また、この真剣な議論やその結果を具現化していく努力、具体的には防衛力整備を通じてこそ相互の理解と信頼の強化が図られていくものと考えている。その点、米国とのパイプの細いわが国にとって、JAAGAの皆様がこれまで長年にわたって築いてこられた人間関係に立脚した日米の信頼、協力関係というものは、国家としての大きな財産であり宝であるといえる。私も防衛部長として、成熟した日米同盟を育むために再編協議や防衛力整備に最大限の努力を傾注する所存であるが、不安定化要因を孕む現在の状況の下で、本協議によって関係強化を実現できるまでの間、日米同盟をしっかりと繋ぎ止めておくため、JAAGAの皆様に期待するところは非常に大きい。これからも引き続き日米関係の強固な絆であり続けて頂きたいと願う次第である。



Memento to Maj.Gen.Hirata

第374空輸航空団司令兼横田基地司令交代

—ジョン F. ニューウェル大佐着任—



Colonel John F. Newell

平成19年7月19日(木)、横田基地内格納庫において、横田基地司令兼第374空輸航空団司令官スコット P. グッドウィン大佐から、後任のジョン F. ニューウェル大佐への指揮官交代式が、第374空輸航空団の約200名の兵員を前に、米側約100名、日本人約110名の招待者及び家族の見守る中で厳粛に執り行われた。日米両国旗の登場、両国国歌吹奏の後、先ず式を主催するライト第5空軍司令官が、離任するグッドウィン大佐に対し、在職中の功績を讃えると共に勲章を授与した。次にニューウェル大佐を紹介した後、指揮官旗を手渡し指揮権が移譲された。

グッドウィン大佐は「2年間、美しい日本で、素晴らしい部下や周囲の皆さんと一緒に勤務できたことに感謝すると共に、第374空輸航空団の任務を全うして、太平洋地域の安定に貢献できたことに満足

しています。」と、また基地司令として横田友好協会を3つから4つに増やせたこと、夏の友好祭には132,000人も日本人が基地に来てくれたことなどを総括し、「『成功は一日にして成らず』、部下全員の地道な努力によりこれが成し遂げられたのです。いつか又この日本で勤務できることを切に希望します。」と、離任の挨拶をされましたが万感胸に余るものが込み上げ感涙された。

新基地司令のニューウェル大佐は「伝統ある第374空輸航空団司令官に着任できたことを光栄に思う。日々の努力を怠らず、何時でもどこにでも出動できるように部隊練成したい。兵士一人一人が米国の代表であるとの自覚を持って勤務していこう。皆と一丸となって任務の完遂に当たりたい。」と抱負を述べられた。

式典後は、将校クラブにおいて招待者を交えた和やかな歓迎レセプションが行われた。なおグッドウィン大佐の新補職は、ワシントンDCの米国防総省、統合参謀本部戦略計画・政策部世界対テロ戦争戦闘部門副部長補佐(J5)である。当協会からは中司副会長、越智理事、榎・阪東常務理事、石川会員の5名が出席した。(榎常務理事記)

名誉会員・エバハート元空軍大将の歓迎懇親会



General Eberhart, JAAGA honorary member

平成19年11月15日(木)、午後6時からグランド・ヒル市ヶ谷において(株)日本電気の招聘により来日された当協会名誉会員で元第5空軍司令官(兼在

日米軍司令官)のエバハート元空軍大将の歓迎懇親会が実施された。この懇親会にJAAGA会員、在日米軍軍人等の140名を超える関係者が参加した。

冒頭、竹河内会長がエバハート元大将の紹介と歓迎の挨拶を行った。「1996年に第5空軍司令官(兼)在日米軍司令官、1997年に空軍参謀副長、1999年に航空戦闘軍司令官、2000年には北米航空宇宙防衛軍司令官(兼)米国宇宙軍司令官の要職に就かれ、2005年1月に退官」との大將の輝かしい経歴、JAAGA設立への尽力と支援、JAAGA創立5周年行事での来日等、JAAGAへの強い思い入れ、更には奥様の内助の功等、ユーモアを交えて紹介された。

エバハート元大将は心暖まる紹介へ感謝を述べ、

「在日米軍で仕事した期間は短かったが、大変有意義であった。日米間に色んな事が起きたが、SACO、米空軍50周年でのブルー・インパルスの米国での展示、AWACSの共同訓練等、日米間の強い絆があったからこそ、それぞれを成し遂げることが出来た。個人的には、我々夫婦にとって日本は最も素晴らしい所であると思っており、そして公私共に空自の皆様と素晴らしい関係を続けることができ嬉しく思う。JAAGAの皆様から心から感謝しており、またこのような素晴らしいレセプションを開催して頂いたことに感謝します。JAAGAのロゴにある日米のマークを見る度に私の心は温かくなります。日米という二つの国の結び付き、国民同士の結び付き、両軍の結び付き

といった日米間の絆は、共通の敵が在るからでなく、共通の価値観で強く結ばれている。」と挨拶された。

続いて竹河内会長がエバハート元大将御夫妻にJAAGAからの記念品を贈呈した。来賓の第5空軍司令官(兼)在日米軍司令官ライト中將が日本語で「日米同盟が更に強くなることを期待して“乾杯”」と乾杯の音頭をとり、宴が始まった。昔話に話が咲き、エバハート元大将御夫妻を囲む歓談の輪が広がった。また出席した在日米軍軍人と会員等との会話も弾み、歓迎懇親会は大変な盛り上がりを見せた。楽しい時はアッという間に過ぎ、山口副会長の流暢な英語の乾杯の音頭で閉会となった。

(源常務理事記)

第5空軍司令官ライト中將の歡送会



Farewell party for LTG. Bruce A. Wright

平成20年2月4日夕、「第5空軍司令官(兼在日米軍司令官)ライト空軍中將の歡送会」がグランドヒル市谷でJAAGA主催により実施された。ライト司令官ご夫妻、竹河内会長ご夫妻を始めとしてJAAGA会員、米空軍軍人、空自現役等の約130名が参加した。

最初に、主催者の竹河内会長から参加者に対するお礼の言葉と、「ライト司令官は、今月25日に在日米軍司令官兼ねて5空軍司令官を離任され、4月に米空軍から退役されると伺っております。ライト司令官は通産6年の日本勤務がありますが、3年前に着任された際、故郷に帰ってきた様な思いですと述べられたこと、そして、日米共同体制を強化し、日本と米国との間の絆を強化するために働きたいと述

べられたことを明確に覚えています。その言葉のとおり、この3年間、本当に多くの仕事をなされたと思います。そして、JAAGAの活動に対しても大変な理解をもって色々な支援・協力をして頂きました。そのお陰でJAAGAの目的も十分達成できたと感謝しています。また、司令官を支えられたのがケリー夫人であり、パーティ等において、参加した会員や会員夫人に明るく優雅に接して頂き有難うございました。最後に、ご退役後のライトご夫妻の益々のご健勝とご多幸をお祈りしますとともに、改めてライト司令官の活動に対しまして感謝と敬意の念を表したいと思います。」との挨拶が述べられた。

主賓であるライト司令官は、本会に参加された方々へのお礼の言葉を述べ、「皆様と一緒に過ごした大変楽しいことも沢山ありました。そして、JAAGAの設立目的である日米の友好・友情を強めていくということにおいて、多くのことを教えて頂きました。JAAGAの活動から世界の中で最も重要であるこの日米同盟関係の基礎が個人的な友情に基づいていることを教わりました。私は生きている限り日米間の友情をより良くするために今後も継続して取り組んで参りたいと思っています。また、私達は日米で共に様々なことに取り組み多くのことを達成してきました。BMD態勢の整備もその大きな一つです。(個人名を挙げつつ)皆様方のご支援・友情・ご指導が

あったからこそだと思っています。JAAGAにも大変感謝しています。私達はもうすぐ離日することになります。皆様のごことはケリーと私の心の中にずっと住み続けますし、忘れることはありません。大変素晴らしい組織である航空自衛隊と米空軍が偉大な日本とアメリカの旗を守っていくという大きな仕事と一緒に取り組むことができ、本当に光栄に思っています。」と挨拶された。サプライズではあったが、ライト司令官から提案があり自ら乾杯の音頭を飛ばされた。

続いて、8人目のJAAGA名誉会員となられる証として会長から記念の楯が贈られた。また、歓送会

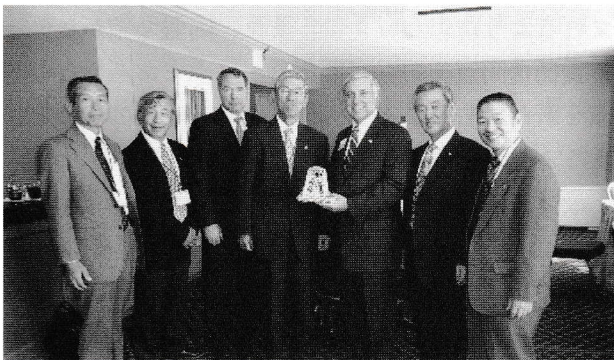
参加の皆様からの記念品もライト司令官ご夫妻に贈呈された。

多数の参加を頂いた現役を代表して永田航空総隊司令官が感謝の言葉を述べ、力強い乾杯の音頭により本格的な宴が始まった。ライト司令官ご夫妻を中心とした歓談の輪が広がり、時間の過ぎるのを忘れるぐらいの盛会となった。最後に、ライト司令官の古くからの友人である山口副会長から思い出に残る司令官の幾多の功績を紹介されての送別の言葉があり、納杯となった。ライト司令官ご夫妻は盛大な拍手で見送られ、会場を後にした。

(源常務理事記)

「新生つばさ会/JAAGA」による訪米研修に参加して

— A F A年次総会へ参加、太平洋空軍司令部・ネリス空軍基地等を訪問 —



JAAGA delegation at AFA headquarters

今年度の「新生つばさ会/JAAGA」による訪米研修は、遠竹郁夫理事長を団長とし、越智通隆理事、永岩俊道会員、堀好成常務理事と香川清治常務理事(筆者)の計5名により、平成19年9月16日から27日までの日程で実施しました。今回の主な訪問先は、太平洋空軍司令部を皮切りに太平洋軍司令部、ネリス空軍基地、国防総省、日本大使館そして米空軍協会(AFA, Air Force Association)年次総会でしたが、その間、多くの米空軍現役高官やJAAGA名誉会員の皆様方等との親密かつ充実した交流の場が得られ、米空軍の現況や今後の趨勢に触れることが出来たとともに、改めて日米相互の友好親善を確認し合うことが出来、大変有意義な訪米となりました。

最初の訪問先であるハワイ州ヒッカム空軍基地の

太平洋空軍司令部では、今次訪問に際して絶大なご支援を頂いた司令官のヘスター大將及び13空軍司令官のアターバック中將との再会を喜び合うとともに、新しい太平洋空軍の有り様等について貴重な説明を受けることが出来ました。中でも、13空軍の太平洋地域における作戦・運用上の重要な位置付け、役割に関する説明や、堅固な日米同盟の重要性は不変とする一方で中国、ロシアとの信頼醸成もまた必要との認識が示されたことは、太平洋空軍の大きな変化として特に印象的なものでありました。また、同基地に配備されたC-17部隊の見学に際しては、パイロット2名とロード・マスター1名の計3名で任務遂行が可能という同機の高性能振りの説明に加え、太平洋空軍としての作戦・運用機能を十分に発揮するためには高い航空輸送能力の保持が必須要件との説明を受け、一段と向上した太平洋空軍のポテンシャルを感じる機会となりました。

続いて訪問した太平洋軍司令部では、歴代米軍三沢基地司令で現HQ USPACOM/J3のアトキンス少將、同/J50のアンジュレラ准將と再会する中、イラク対応の活動振りやSBX(Sea Based X-band Radar)、THAAD、BMD等に関する大変興味深い説明を受けることが出来ました。ヒッカム空軍基地訪問の間、現太平洋空軍副司令官のライス少將が次期5空軍司令官として予定されているとの紹介

があり、今回の我々の訪米が一層意義深いものとなったように思えました。

次の訪問地は、米空軍に所属する者なら一度は赴任することを希望するというネリス空軍基地。同基地の「USAF Warfare Center」は、米空軍が米陸、海軍及び海兵隊と共に行動することを前提とした戦術・戦法の案出や、指導者・指揮官の教育、4種のフラッグ訓練の実行等を担当する部隊でしたが、正に米空軍の質と方向の決定付けに重要な役割を持つ部隊との印象を強く受けました。また同基地では、今注目のF-22、無人偵察機プレディターやサンダー・バード施設を見学する機会が得られたのに加え、指揮官のウォーデン少将は筆者が統幕3室長であった頃のカウンターパートであるHQ USFJ/J3であったことや、ラスベガス在住のマギー・サールス女史が我々のエスコート役を引き受けて下さったことが、今回のネリス空軍基地訪問を一層楽しく充実したものにしてくれたことを紹介させていただきます。

そして最後はワシントンDC。国防総省等への訪問に先立ち、歴代在日米軍司令官であられた名誉会員の皆様を迎えての招宴を企画したところ、マイヤーズ大将ご夫人、エバハート大将ご夫妻、ホール中將ご夫妻、ワスコー中將ご夫妻そして特別ゲストとして遠竹団長の親しい友人である前米空軍参謀総長ジャンパー大将ご夫妻をお迎えすることが出来、懐かしい思い出話や近況について大いに語らう楽しい一時を実現することができました。

国防総省においては、世界情勢等に関する情報ブリーフィングに始まり、AF/A2のデプチュール中將、AF/A8のジョーンズ中將、副AF/A3/5のニュートン少將、SAF/IAのジョディス准将らに表敬・面談する機会を得ましたが、米空軍の現状や趨勢等に関する話題に加え、中国への対応に関わる話題が多く出されたことが印象的でした。

日本大使館では、日程の都合で加藤良三大使にお会いすることは出来ませんでした。防衛駐在官の吉田正紀海将補と面談する機会を得ました。本国の難しい政治情勢の中、制服を着た外交官としての役割を積極的に果たそうとする意欲に溢れた吉田海将補のお話し振りに圧倒されたのは筆者だけではなかった筈です。

退役、現役を含めた会員総数約13万人を有するAFAは、機関雑誌「Air Force Magazine」を発行

する全国的組織であり、今回の年次総会で見られた各種のセレモニーや会場ホテル内に設置された軍事産業界の多数の展示物は、エアー・パワーとしての米空軍の強大さを感じさせるものでありました。折しも同会場では、米空軍参謀総長モーズレー大將が主催されるGACC (Global Air Chiefs Conference) が同時開催されており、各国の空軍参謀総長等から過去の戦訓、相互運用性、国際協調等に関する興味深い意見発表がなされていました。米空軍は、現在、「世界的なテロとの戦い」、「兵士の生活レベルの質的向上」そして「戦力の能力向上と近代化」を優先施策に掲げながら大規模な組織改革を進行させていますが、正に米空軍の着実な改革振りと地球規模的な存在感を示す一大行事を垣間見た思いでした。

日米交流については、米国内における日米関係の重要性に関する認識低調傾向を助長させないためにも、今後共、OBレベルでの人的交流を大事にするとともに、多彩なレベルでの交流拡大努力が一層望まれるように思われます。また、同盟の確かさの確認責任は同盟国相互にあるのが基本であろうとの認識を新たにすることも、今回の訪米成果の一つと言えるような気がいたします。

最後に、事前勉強でお世話になった5空軍司令官のライト中將、航空幕僚監部のスタッフの皆さん、そして訪問先でお世話いただいた防衛駐在官、連絡幹部等、今回の訪米に際してご協力頂いた関係者各位対し、本紙面をお借りして心から感謝の意を表したいと思います。本当に有難うございました。

(香川常務理事記)



JAAGA delegation at Nellis AFB

賛助会員の横田基地研修



Associate members visited Yokota AB

平成19年9月4日(火)、昨年度に引き続き2回目となるJAAGA賛助会員の米軍横田基地研修が実施された。田中穰研修団長(法人)、小笠原義通副団長(個人)以下、法人賛助会員19名、個人賛助会員11名が参加し、本協会から新井・榎・北村・阪東・堀・源の各常務理事が支援した。

午前9時半にJR福生駅に集合し、迎いの米軍バスに搭乗し、ゲートでIDチェックを受けた後、横田基地に入った。10時から第374輸送航空団司令部において、横田基地の沿革、基地名の由来、基地の規模、周辺状況、第374輸送航空団の組織、任務、保有航空機、さらには人道支援、合同演習、防災訓練等について説明を受けた。

その後、ランプ地区に移動し、駐機中のC-130型機を見学した。経験豊富な搭乗員による機内の詳

細な説明を賛助会員は質問を交えながら興味深く聞いていた。パラシュートを担いだり、コックピットをのぞくなど貴重な体験となったようだ。

12時過ぎから将校クラブでの昼食会に参加した。初めに、横田基地司令(第374空輸航空団司令)ジョンF. ニューエル大佐から「皆様が横田基地の見学をして頂いたことを大変うれしく思っています。JAAGAの支援のことを学び、日本における米軍の駐留に対して理解を促進して頂いていることに感謝申し上げます。日米同盟と相互理解に大きく寄与してい

ます。そしてそれが西太平洋地域における平和と安定の鍵であることを理解しています。皆様一人々が横田基地の基本的使命を学びその役割を理解して頂くことを願っています。」と歓迎の挨拶があった。続いて、堀理事、田中研修団長が謝辞を述べ、食事、歓談となった。席上、JAAGAからの記念の品が米軍側に手渡された。

食事後は、AFN(American Forces Network)の放送現場や第730航空機動中隊を見学した。続いて、バスに乗車しての基地内ツアーが行われ、広報担当者から主要施設等の説明を受けた。そのままバスはJR福生駅まで向かい、全ての研修は終了した。

(源常務理事記)

横田基地研修所感

三井物産エアロスペース(株) 秋山 登 研修団は、9時半、JR福生駅に集合し、バス(横田基地支援)にて研修会場へと向かった。横田基地入門の際には、抜打ちのIDチェックがあり、“在日米軍の現状”を垣間見ることができた。無事抜打ち検査をパスし、一行はブリーフィング会場へと向かった。

第374空輸航空団広報部長の挨拶後、広報部阿部氏によるブリーフィングが実施された。同ブリーフィングでは、『横田基地の歴史』、『第374空輸航空団の編成と任務』、『日米の文化の違い』等に関して説明いただき、研修参加者は非常に興味深く、熱心に聴講していた。スマトラ沖地震時のC-130人道支援派遣、防災の日に実施された日米共同訓練等の説明

により、第5空軍の国連軍としての役割、および災害時の日米協力体制を深く理解できた。

その後、滑走路へと移動し、駐機中のC-130の見学を実施した。C-130の性能、役割、また、ミッション遂行時における具体的なオペレーション方法などにつき米隊員より説明を受けた。実機を前にしてのブリーフィングは、ミッション時の状況などが想像でき、理解を深めることができた。新潟中越地震時に、C-130が支援派遣され、支援物資の搬送で協力があったことも説明され、感慨深い様子で参加者は話に聞き入っていた。また、コックピットの見学や、装備品であるパラシュートを装着させて頂いたり、大変貴重な体験をさせていただきました。本年の11月には日米共同演習が実施され、陸上自衛隊空挺団が米軍C-130よりダイブ予定であると伺いました。

C-130見学後、将校クラブにて昼食会が実施されました。本会には基地司令ジョン F. ニューウェル大佐にもご参加いただきました。各テーブルへは、基地主要指揮官にご着席いただき、質問や談笑で賑わいをみせた食事会であり、友好を深めることができました。昼食後、横田基地内にあるAFN (American Forces Network) を見学となりました。世界展開する米軍の象徴ともいえる本施設は、好奇心をくすぐるものでもあった。実際のテレビ収録スタジオの見学、生放送中のラジオ・ブース内を見学することができた。ラジオ・ブース内では、「先般の防災訓練の際は、ここから災害発生の通知がなされた」と伺い、有事の際のAFNの任務の一端をのぞくことができた。

最後に、Passenger Cargo terminalの見学となった。Passenger terminalは、チェックイン・カウンター、手荷物検査場、ラウンジなど民間空港と同様の機能を有しており、まさに『横田基地の空の玄関』であった。また、横田基地のみならず、三沢、佐世保、厚木、また、ここを中継地として各国へ搬送されるCargoが集結するCargo Terminalでは、第374空輸航空団の『空輸の軸』としての任務を肌で感じる事ができた。その後、バス・ツアーにて基地内見学をし、本研修は終了となった。

本研修では、実機・施設見学にて貴重な体験をさせていただいたと同時に、ブリーフィング・懇親等より、在日米軍の任務、日米安保体制の重要性などを再認識することができ、大変有意義な研修でありました。

本研修に実施にあたり、ご尽力いただきましたJ AAGA理事各位、横田基地関係各位に、深く御礼申し上げます。

(株)IHエアロスペース 木村 光利

米軍横田基地研修に参加させていただきました。当日は、終始手際よく沢山の施設をご案内いただき、まさに盛り沢山の内容でした。本当に貴重な経験をさせていただきまして、横田基地の皆様、J AAGAの皆様には大変感謝しております。

横田基地を含め、在日米軍基地に入ったのはもちろん初めての経験でした。バスから眺める窗外の景色はまさに「外国」であり、住居に学校、ラジオ局からゴルフ場に至るまでをフル・パッケージで基地として駐屯させるというスケールの大きさにとても驚きました。噂には聞いていましたが、ここまで「アメリカ」を再現しているとは想像していませんでした。特に印象に残ったのは航空機動中隊のターミナルです。搭乗ゲートや受付カウンターなど、ミニ・サイズではありますが日本の空港と遜色ない設備が揃っており、基地の中にこんなものまで備えているのかと感心しました。広報の方のお話で、「基地から一步も外に出ないで帰国される方もいる。」とお聞きしたのですが、なるほど、それも可能なほど設備は整っていると妙に納得したものです。

今回の研修では多くの米軍人の方と交流する機会をいただきました。皆様が終始にこやかに、時折ユーモアも交えながら質問に答えてくださったことがとても印象に残っています。昼食会ではAFNの横田基地局長と同席させていただき、多くの興味深いお話を聞くことができました。AFNの製作スタッフやDJは基本的に米軍人が担当しており、入隊してから訓練を受けて始められる方がほとんどだということです。昼食後、実際にAFNのスタジオに案内していただきラジオ放送も見学しましたが、DJの方はプロも顔負けの格好良さで、正直驚きました。米軍での任務を終えてから、民間の放送局へ転職される方もかなりいらっしゃるようで、そのレベルは相当高いと思います。この放送ですが、基地の外でも受信できるということでしたので、今度じっくり聴いてみるつもりです。

今回の研修では、横田基地での米軍の活動内容、

横田基地の安全保障上の意義についても、熱心で丁寧な解説をしていただきました。また、輸送機のC-130や積荷・運搬用の特殊車両カーゴ・ローダなど、各種の活動に必要な施設・装備品についても実際に見学させていただき、見るだけでなく、可能なものは触れさせていただきました。C-130はコックピットの中まで見学することができました。説明を聞くだけではなく、実際に見て、触れてみて、また現場の雰囲気を感じることで、日米同盟や在日米軍基地、日本の国際貢献のあり方についても、改めて考えるきっかけになりました。米軍人の方々からのご説明も、誇りを持って日々の活動に当たっておられる様子が素直に伝わってき、この研修に参加することができて本当に良かったと思っています。

研修最後のバス・ツアーの際、基地内のグラウンドで夕日を背にアメリカン・フットボールの練習をする高校生達の姿を見ました。終始なごやかに進められた今回の研修の最後にふさわしい、とても爽やかな光景で、昼食時にいただいたワインの酔いも手伝って、大変良い心持で帰宅の途につきました。

伊藤忠商事(株) 大石 真

横田基地の各施設を見学するという貴重な機会を設けてくださいましたJAAGAの皆様、また貴重な

お時間を割き丁寧にご説明してくださいました横田基地の皆様にご心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

第734空輸航空団の施設内での横田基地に関する詳細なブリーフィング、C-130ハーキュリーズ実機の見学、弊社としてはFEN (Far East Network) の名前の方が馴染み深いのですが、現在は名前が変わりAFN (American Forces Network) となっているテレビ・ラジオ局の見学、地方の民間空港のように設備の整った空港設備及び、広大なWarehouse等様々な施設を見学させていただきました。それぞれの施設において、丁寧にご説明をいただき、また我々の質問につきましても時間の許す限り丁寧にご回答いただき、理解を深めることが出来ました。

特にC-130の実機の見学では、機内を見学させていただくに留まらず、パラシュートのベストを着用させていただいたり、コックピットに入ることが出来たりと感激の連続でありました。

短い時間では有りましたが、多くの施設を効率良く見学することができ、また会員の方との親睦を深めることもでき非常に有意義な1日であったと思います。本当に素晴らしい機会を設けていただき有難うございました。

賛助会員の三沢基地研修



Associate members visited Misawa AB

JAAGA主催の賛助会員三沢基地研修は、平成19年11月28日、29日の両日実施された。参加したのは、

(株) I H I 百合賢祐氏を団長とする法人賛助会員14名、個人賛助会員5名の計19名であり、JAAGA

からは奈良常務理事ほか4名が同行し、現地で小澤三沢支部長、山本事務局長が懇親会に参加した。

今回はC-1輸送機の搭乗ができず、28日12:30にJR三沢駅への現地集合という初めての形で研修が開始された。天候は極めて良好で、北部航空方面隊副司令官内田空将補への表敬（司令官入澤空将は不在）の後、副司令官より最近のスクランブルの状況など同方面隊及び三沢基地に関する概況説明を受けた。以降、第3航空団司令若林空将補への表敬、団及び基地の概況説明受け、アラート地区でF-2のデモ・スクランブル研修、三沢管制隊で管制塔及びラプコン・センタ研修、警戒航空隊におけるE-2C研修により、空の守りの第一線の状況について理解を深めることができた。

米軍外来宿舎でチェック・インの後、米軍オフィサーズ・クラブにおいてJAAGA主催の懇親会を開催した。米空軍からは、第35戦闘航空団副司令マローン大佐以下の主要幹部、米海軍三沢航空基地隊司令ラッシュ大佐、空自から内田北空副司令官、若林3

空団司令以下の主要幹部が参加された。カクテル・タイムに続くディナーでは、司会の山本常務理事が百合団長と若手の（株）IHIエアロスペース緒方氏に英語でスピーチを求めるなど、和やかな懇談となり、親善の環が広がった。

翌29日は先ず米軍も交えた朝食会。それから、第35戦闘航空団司令部において同団の概況説明を受け、引き続きF16及び搭載弾薬・ミサイル研修、エンジン・テストセルでのF110エンジンのアフター・バーナ試運転の研修を実施した。その後、バス・ツアーで基地内主要施設を巡り、米軍基地の状況について理解を深めた。研修全てに副司令マレーン大佐が同行し、説明を実施していただいた。米軍研修を終えた後、空自の基地食堂で入澤北空司令官も加わった基地主要幹部との会食の場が設けられ、帆足副団長（個人賛助会員）が御礼のスピーチを実施した。帰路は往路と同じくJRを利用し帰途についた。

（高橋健才常務理事記）

三沢基地研修所感

三菱重工業(株) 阿形律子

前の週に降った雪が残るJR三沢駅にて、JAAGA常任理事をはじめ、空自の方々のお出迎えを受け、青く澄み切った青空と凜とした外気に、2日間の研修への期待に身が引き締まる思いがしました。

百合団長以下総勢23名は、北部航空方面隊司令部を表敬訪問し、内田副司令殿の講話を拝聴し、F-2、F-4、ペトリオット・ミサイル等の装備を擁し北の空の守りを主任務としての活動、日米の連携、地域に密着した三沢基地についての理解を深めました。特に、F-2のグアムでの初海外訓練、積雪の多い地域ならではの冬の訓練や飛行場の除雪作業のご苦労等が印象的でした。

F-2とF-4EJ支援戦闘機の実機展示の後、アラート地区では、24時間体制で、領空に侵入する恐れのある国籍不明機に対し、5分以内で緊急発進ができること、スクランブルの回数が増加傾向にあ

ること等、日本の防空の切迫した実情をご説明頂きました。スクランブルのデモでは、緊急発進指令装置を押すという大役を仰せつかり、緊張しながら渾身の力と思いを込めて押しました。Gスーツに身を包んで待機しているパイロットの方々2名が、私の合図と同時に部屋を飛び出しF-2に搭乗、整備の方々をはじめ大勢の自衛官が、国防のために日夜命を掛けて任務を遂行されている雄姿を目の当たりにして感動致しました。

充実した一日目の空自三沢基地研修も無事終わり、米軍の宿泊施設「MISAWA INN」（JAAGAならではの特別な計らいで通常では民間の日本人は泊まれないとのこと）にチェック・インしました。アメリカン・サイズのゆったり充実した設備で快適に寛ぐことができました。クリスマスの飾り付けが素晴らしいオフィサーズ・クラブでの夕食会では、ディナーをいただきながら、親しく歓談できたことも楽

しい思い出となっています。

二日目の米軍三沢基地研修は、米空軍第35戦闘航空団にて、基地の概要やF-16の任務等の説明があり、イラク等での輝かしい実績を認識し、その後の日米両国の国旗の前に展示されているF-16戦闘機と搭載ミサイル等を見ながらのブリーフィングは、米航空遠征軍の一員等としての任務を実感するインパクトのあるものでした。

エンジン整備施設のエンジン単体のアフター・バーナ試運転では、間近で轟音と風圧で体中が振動するという得難い体験ができました。

マローン副司令殿は、広い基地内に整然とならぶ格納庫（掩体壕）や米軍の充実した施設（ゴルフ場、アスレチック施設、チャペル等）を時折ユーモアを交えながらバスでご案内くださり、まるで米国本国に来ているような錯覚を覚えました。

三沢基地は、北の防衛の要として、訓練や各種行事等を日米が協力して行う日米安全保障の重要な位置づけであるということを実感した有意義な研修でした。お忙しい中、ご対応いただきました米軍の方々、空自の皆様へ心からの御礼を申し上げます。最後になりましたが、このような貴重な機会を企画いただきましたJAAGAの皆様に感謝致します。どうも有難うございました。

（株）IH|エアロスペース 緒 方 規 文

当初の予定であったC-1輸送機で三沢基地への移動ができなかったものの、生まれて初めて三沢駅に到着し、JAAGA 常任理事と航空自衛隊の方々のお出迎えを受け、これから2日間どういった研修になるのだろうかという期待に胸を膨らませました。

初日の午後は、内田・北空副司令官、若林3空団司令への表敬の後、北部方面隊および三沢基地に関する概況説明を受け、団の構成、主要装備、主要任務・活動内容について理解を深めました。その中で、スクランブルの約半分は北空での事例が多いという北空の防衛事情、毎年盛大に行われている航空祭、全国各地で活躍している北部航空音楽隊のお話が印象的でした。その後、F-2とF-4EJ支援戦闘機の実機を前に、その概要をご説明いただきました。隊員の方は、素人の私の率直な質問にも丁寧に対応

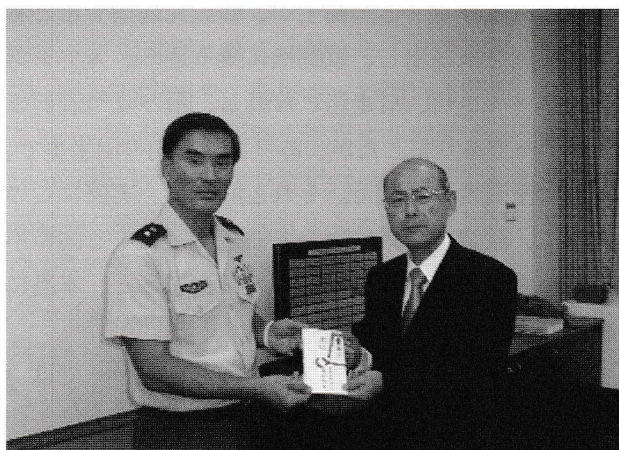
していただき、本当に勉強になりました。個人的には、F-2のコックピットに座らせていただいたことが、本当に興奮した出来事でした。次に、アラート地区におけるデモスクランブル研修では、待機しているパイロットと整備士が、緊急発進指令とともに、部屋を飛び出し、戦闘機に乗り込み、エンジンをスタートさせ、滑走路に移動し、飛び立つ直前までのデモでありましたが、あっという間の出来事で、本当に圧倒されました。それと同時に、実際にこのように、航空自衛隊によって領空に侵入する国籍不明機から日本は守られているのかと思うと、本当に感激しました。

夜のオフィサーズクラブにおけるディナーでは、閉会の乾杯のスピーチを英語で行うという大役を仰せつかりました。最初、言葉が詰まってしまっただうなることかと思いましたが、皆様が温かい目で私のスピーチを本当に聞いていただき、大変貴重な体験になったと感じています。ディナーの後の2次会では、三沢基地の外に出て、JAAGA理事の方々の現役時代の経験談など、普段では聞けない話も沢山聞くことができ、楽しい時間を過ごせました。

二日目、米軍三沢基地の概況説明の後、F-16及び搭載弾薬を見ながら、その概要を説明いただきました。搭載弾薬の使用実績や用途など丁寧に説明いただき、理解を深めることができました。それからエンジン整備施設では、韓国の米軍基地からも整備のためにエンジンが運ばれてくる話を伺い、米軍の広く世界的な規模の大きさを感じました。その後、エンジン・テスト・セルでのF110エンジンのアフター・バーナ試運転では、運転の様子をすぐ近くで見せていただいて、ものすごい音で、空気がびりびりと震えるのを本当に肌で感じる事ができ、その迫力に感動しました。

この研修を通じ、日米連携して日本の北空を守っている姿を拝見させていただき、このように日本は守られているのかということを実感でき、本当に有意義でありました。本当にこのような素晴らしい研修の機会を作っていただいたJAAGAの皆様、またお忙しい中、私達研修生を懇切に受け入れて下さった日米の三沢基地の皆様方に本当に感謝と御礼を申し上げます。有難うございました。

レッド・フラッグ・アラスカ演習参加部隊の激励



JAAGA supported Red Flag Alaska 2007 Exercise

レッド・フラッグ・アラスカ07-3は、平成19年7月12日（木）～7月27日（金）の間、米国アラスカ州アイルソン空軍基地及びエレメンドルフ空軍基地並びに同周辺空域・地域において日本、米国

（アグレッサー他）及びNATO等が参加して実施された。航空自衛隊からは第7空団飛行群司令田中1佐を指揮官として第7航空団からF-15J/DJ型機6機、警戒航空隊からE-767型機1機、第8航空団から携SAM追従訓練器材6セット参加人員指揮官以下約200名が参加した。天候不良によりわずかながら訓練規模が縮小されたが、米軍戦闘機部隊と共同による防空戦闘訓練及び基地防空戦闘訓練は、ほぼ計画通りを実施された。この間、訓練や各種交流を通じた相互理解、信頼醸成に努め、所期を超える成果を挙げ、8月2日までに全隊員が無事に帰国した。JAAGAからの訓練激励金は、訓練を視察された中島総隊防衛部長から訓練指揮官に手渡され、米軍人を招いての懇親会等及び訓練参加者の融和団結のために活用された。（石黒常務理事記）

コープ・ノース・グアム訓練参加部隊の激励

19年度のコープ・ノース・グアム（CNG07-2）は、19年5月29日（火）から7月4日（水）の間、グアム島アンダーセン基地、FDM射場及び同周辺訓練空域において行われた。

参加訓練部隊は、訓練指揮官（第3航空団飛行群司令有馬1佐）以下約230名、参加航空機は、3空団のF-2型機8機、警戒航空隊のE-2C×2機であった。「初のF-2海外訓練」であったが、天候にも恵まれ、対戦闘機戦闘、防空戦闘訓練、空対地射爆撃（実弾投下）訓練がほぼ計画通りに実施された。参加隊員の創意工夫と米軍の積極的な支援により成功裏に訓練を終了することができた。

訓練を視察された永田総隊司令官に託されたJAAGAからの訓練激励金は、日米約600名が参加した訓練終了（END-EX）パーティで紹介されると



JAAGA supported Cope North Guam 2007 Exercise

ともに、同パーティに有効に活用され、航空自衛隊と米空軍の信頼醸成に大きく役立った。

（石黒常務理事記）

米軍人の日光研修



Nikko tour

平成19年11月27日及び28日の両日、米空軍横田基地第5空軍副司令官ラリーD. ジェームス少将ご夫妻、5空軍司令部装備部長ウォンジL. ガードナ大佐ご夫妻、司令部法務官ダニエルE. ロジャー大佐、カレン・ウェスト女史の6名が日光方面を研修した。本研修は、宇都宮市在住のJAAGA個人賛助会員高柳實氏のご支援で今回が3回目となる。なお、通訳兼調整役としてミッシェルH. マクラッケン氏が同行し、JAAGAから企画担当堀理事夫妻と会員担当の宇都宮理事が案内・世話役として参加した。米空軍の車両で横田基地を発ち東北自動車道宇都宮ICを降りた所で、高柳氏ご夫妻をはじめ支援をいただく方々の歓迎を受けた。挨拶の後、高柳昌喜氏（高柳實氏の甥）、三浦日出男氏（栃木県航空協会理事、防大4期）が同行していただき、日光「金谷ホテル」で昼食、その後世界文化遺産の神橋（しんきょう）を見学した。小移動後の東照宮では華麗な陽明門に感嘆の声があがり、家康の墓所では徳川幕府の歴史についての説明にも耳を傾けていただいた。また、本地堂の鳴竜には興味津々のようであった。続いて二荒山神社では、巫女の舞をご覧いただくとともに、ジェームズ少将が参加者を代表して緊張した面持ちで玉串を奉てんし、全員で神道の作法に則り2礼・

2拍手・1礼で拝礼した。宿泊は由緒ある宇都宮グランドホテル。同ホテルでの夕食会は、高柳氏御夫妻、娘さんの堀川典子さん、奥様の兄様の大橋氏、甥の高柳昌喜氏ご夫妻、三浦氏（防大4期）等の歓待を受け和気藹々の楽しい時間を過ごすことが出来た。

翌日17日は朝食後、ホテル内の広大な庭園の散策を楽しんだ後、益子町方面に向かった。益子町の関澤窯ではろくろ体験と絵付けを実習していただいたが、予定時間をオーバーする程の真剣さでそれぞれの作業を楽しんでいた。関澤窯ミュージアムの見学では

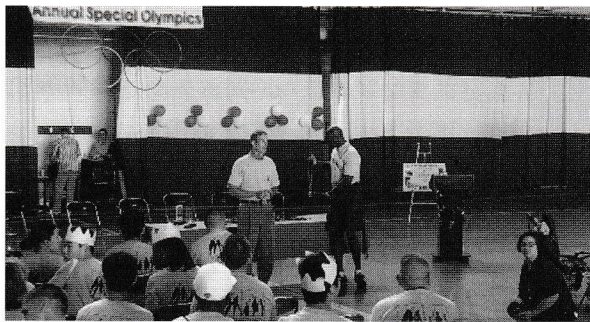
「用の美」の特徴で知られる素朴な中にも奥深い益子焼の素晴らしさを実感していただいた。その後、益子市内の外池酒造店に移動、日本酒の醸造過程をご理解いただくとともに、利き酒にも挑戦した。日本酒独特の醸造過程といろんな日本酒の特徴、焼酎と日本酒の違い等、お酒についての話題には事欠かなかった。昼食には高柳ご夫妻を始め関係者の方々の他、当日、益子における研修に同行、支援していただいた地元益子の英会話同好会の皆様もご一緒いただいた大昼食会を楽しんでいただき、名残を惜しみながら皆さんの見送りを受けつつ横田基地に向かい益子を後にした。

日頃の忙しい勤務から開放され1泊2日の日光旅行を十分堪能していただいたようで、高柳氏が言うておられる「故郷を遠く離れて、同盟国日本の防衛のため汗を流してくれている米空軍に対する感謝の気持ち」を十分感じて頂いたものと思う。

本研修を成功裏に終わることが出来たのは高柳實氏のご支援と堀川典子様のかめ細かな計画・調整、またライト司令官の本研修に対するご理解、ドライバーから通訳までの大活躍をいただいたマクラッケン氏が積極的に動いて頂いた賜物と考える。

（堀常務理事記）

三沢スペシャル・オリンピック



2007 Misawa Special Olympics

平成19年9月22日(土)、米空軍三沢基地で2007年スペシャル・オリンピックが開催された。JAAGAは資金の寄付を行うとともに三沢支部長以下が参加した。会場は滑走路の西端に近い第949格納庫内を中心に行われた。今回の招待されたのは青森県上北郡七戸町にある「もみの木学園」に入園している生徒達29名であった。

三沢基地司令オショーンネシ大佐の開会宣言で50m走、75m走、ボーリング、フリスビー投げ、サッカー・ボール蹴り等の競技が開始された。生徒さん1人について3人から4人ものスポンサーが付いていた。各競技をする毎にもらうリボンを胸一杯に着けて満足そうな子供達の様子が印象的であった。

今回は米軍三沢基地の太鼓クラブの人達が演奏を行い、勇壮な響きで会場の雰囲気盛り上げていた。昼食の後、表彰式が行われ、司令官とジョージ整備群司令から参加した子供一人一人にメダルが贈られて閉会となった。

なお、三沢支部の山本事務局長は通訳ボランティアとして参加したが、独自に風船細工を行い、参加した子供達ばかりでなく、多くのスポンサーからもリクエストを受け大忙しであった。

(小澤三沢支部長記)

米軍人の青森「ねぶた」参加

平成19年8月4日(土)、JAAGA三沢支部は、東北の有名な夏のイベント「ねぶた」の見学支援を実施した。今回は、大型バスの確保ができなかったため、実施そのものが危ぶまれたが、オショーンネシ第35戦闘航空団司令ご自身が強い興味を示され、小型バスを出してもらえることとなり、個人参加の車2台と、合計3台の車を連れ青森に向った。「ねぶた祭り」の参加者は35FW司令ご夫妻、35FW先任下士官ご夫妻を始めとし、29名であった。」JAAGAからは小澤三沢支部長、山本事務局長夫妻が随行した。

車の流れもスムーズで、予定時刻よりかなり早く、目的地のラ・プラス・ホテルに着いた。青森到着以降は青森国際ボランティア協会(AIVA)のお世話を受け「ねぶた祭り」衣装の提供及び着付け支援を受けるとともに、歓迎レセプションに参加した。

今年は三沢からの米軍人及び家族のほか、韓国からのお客様もあり、会場では日本語、英語、ハンガールで司会が行われ、本当に国際的な会となった。JAAGAが準備したピザやケーキも皆さんに大変喜



Nebuta Festival in Aomori

んでもらい好評であった。

レセプション終了後、「ねぶた」の運行に間に合うように見物と実際にハネトとして踊る組に分かれた。見物場所は市役所側の大きな交差点の角に用意してもらい、迫力満点の巨大な「ねぶた群」と熱気溢れるハネトやお囃子組みを堪能した。踊りに加わったグループはかなり興奮した様子であった。

小型のバス利用のため、帰日もスムーズに進み、午後10時半過ぎには三沢基地に戻ることができた。参加者は夫々に大変満足されて散会した。

(小澤三沢支部長記)

横田基地日米友好祭'07

平成19年8月25日(土)、26日(日)、横田基地の日米友好祭が行われた。米軍及び自衛隊の航空機が多数展示されたほか、屋内・屋外のステージでは、和太鼓、エーサー、ソーラン踊り、ロック演奏、太平洋空軍バンドの演奏等が行われ、天候にも恵まれ多くの市民が訪れていた。

25日(土)、午後1時半から下士官クラブに於いてレセプションが開かれ、横田基地司令(第374空輸航空団司令)ジョンF.ニューエル大佐の招待によりJAAGAから岡村常務理事、源常務理事、山岡会員、石川会員が出席した。軽食を楽しみながら、日米友好親善の輪が随所に出来る和やかな雰囲気でのレセプションであった。途中、ニューエル基地司令が「横田基地でのフェスティバルに参加して頂いたことをうれしく思う。このフェスティバルを通じて横田基地の使命を学んで頂きたい。」旨の挨拶を行った。挨拶の中で基地周辺の友好クラブ、周辺市町的首長、入間・府中の空自指揮官等の招待者の紹介が



Japan-US Friendship Day in Yokota

あったが、我々JAAGAメンバーが最初に紹介されたのはサプライズであった。1時間ほどでレセプションは終わり、ニューエル基地司令ご夫妻を初めとし、基地の皆さんの心温まる接遇に感謝しながら基地を後にした。

(源常務理事記)

横田基地エア・フォース・ボール'07

平成19年9月22日(土)、横田基地において第374空輸航空団司令ジョンF.ニューエル三世大佐の主催により、米空軍創設60周年を記念してのエア・フォース・ボールが実施された。JAAGAから阪東理事と山岡・石川の各会員が参加した。また、航空自衛隊からは近隣の入間、府中の各部隊の准曹士先任等が招待されていた。

最初に、日米両国歌と米空軍歌の斉唱、米空軍創設を記念して作成されたバースデイ・ケーキへの入刀等のセレモニーが行われた。続いて、今年が米空軍創設60周年であることから、第5空軍司令官自らによる所在優秀将兵の表彰が行われた。その際、司令官は参加者全員に向かって、米航空戦力の歴史等を米空軍創設前の1944年頃まで遡って話し、これか

らも益々精強化を目指すよう全員の士気を鼓舞されていた。その後、舞踏会となり、全員がダンス、歓談等を楽しみ、夜が更けるとともにエア・フォース・ボール'07は終了となった。(阪東常務理事記)



Yokota Air Force Ball, 2007

三沢基地エア・フォース・ボール'07

平成19年9月21日(金)、米空軍三沢基地において第35戦闘航空団司令オショーンネシ大佐の主催により、米空軍創立60周年を記念するエア・フォース・ボールが実施され、JAAGAから三沢事務局長山本夫妻が出席した。

当日の日本側被招待者は、航空自衛隊から三沢基地の北空司令官、北空副司令官、3空団司令及び北警団司令の4将官と令夫人、山本北空幕僚長及び3空団の准曹士先任、海上自衛隊から第2航空群司令重岡海将補、また、三沢市内からは、種市三沢市長等であった。

晩餐会は、いつもと同じように来賓入場、国旗入場、国歌斉唱、お祈り、来賓紹介、戦争捕虜及び行方不明者のためのセレモニー等の終了後、夕食となった。空軍創立記念日のケーキ・カットは、在日米軍司令官ライト中将与三沢基地で一番若い隊員のふたりで行われた。余興として航空自衛隊三沢基地太鼓部が太鼓演奏を行った後、ライト中將のゲスト・スピーチが行われた。



Misawa Air Force Ball, 2007

ライト司令官はスピーチの冒頭で三沢市との関係について「三沢基地は非常に重要な基地であります。三沢市長を中心とした市民の方々にその重要性がよく理解され、非常に素晴らしい友好関係を維持しております。」と話された。晩餐会は、恒例のエア・フォース・ソングの合唱で締めくくられ、その後は舞踏会となり、全員が一体となってダンスに興じて、楽しい一夜を過ごした。

(山本三沢事務局長記)

374空輸団司令主催のオープンハウス



Open House by commander of 374AW

平成19年12月9日(日)15時から16時半の間、米軍横田基地において第374空輸航空団司令ジョンF.ニューエル大佐夫妻主催によるオープン・ハウスが行われ、JAAGAから安宅・岡村・阪東・源の各常

務理事が参加した。例年、オフィサーズ・クラブで実施されていたが、今年は団司令官舎において行われた。最初に団司令ご夫妻の笑顔溢れる出迎えを受け、その後約1時間にわたり、終始にこやかな雰囲気の中、団司令ご夫妻を初めとし、副司令ご夫妻ほか多くのスタッフ等から心温まるもてなしを受けた。瞬く間に時間が過ぎ、最後に、団司令から参加された方々に対する感謝の意を表す挨拶があり、本オープン・ハウスは終了となった。なお、当日は3回に分けてのオープン・ハウスとなり、我々の時間帯には、周辺市町の首長、航空自衛隊府中基地司令等が招待されていた。

(源常務理事記)

嘉手納基地司令主催のオープンハウス

平成19年12月9日(日)、米空軍嘉手納基地において、第18航空団司令官ブレッドT.ウィリアムズ准将夫妻主催によるクリスマスパーティーが行われた。JAAGAからは、石津靖那覇支部長、越智通隆理事、榎利美常務理事、高橋健二常務理事の4名が招待され参加した。パーティーは地元関係者、米軍人夫妻、自衛隊関係等約100名が司令官宅の庭で赤や緑の華やかなクリスマス・カラーの飾りつけの中でおいしい食事と会話を楽しんだ。ハイスクールの聖歌隊によるクリスマス・ソングやサンタクロースのお出まし等、お客様に対する心温まるサービスと、陽気で暖かい南国沖縄のクリスマスを楽しんだ1日であった。司令官夫妻との会話では平素のJAAGAに対する協力や支援に感謝を申し上げたのに対し、遠路は

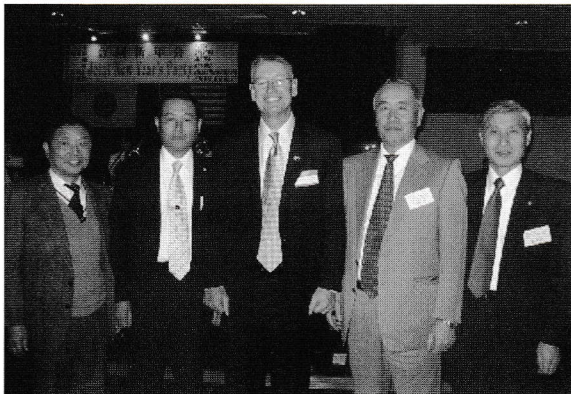


Open House by commander of Kadena AB

るばるお越しいただきありがとうございます。今後とも、JAAGAとのお付き合いをよろしくとのお礼を述べられた。

(高橋健二常務理事記)

'08横田基地と5クラブ合同新年会



New Year party at Yokota AB

1月20日(日)、午後6時から横田基地下士官クラブにおいて「横田基地と5クラブ合同による新年会」が開催され、JAAGAからは中司副会長、理事3名、会員1名がそれぞれ参加した。また、航空自衛隊からは入間・府中の各基地司令が招待されていた。昨年が「福生・横田交流クラブ」、「あきる野・横田交流クラブ」「瑞穂・横田友好協会」及び「羽

村・横田友好クラブ」の4クラブとの合同新年会であったが、今年から更に、「武蔵村山・横田交流クラブ」が加わり、横田基地と5クラブ合同の新年会となったものである。

儀仗隊による国旗掲揚、尺八による日米両国家の演奏で始められ、来賓・主催者の紹介・挨拶等が行われた。横田基地司令ジョンF. ニューエル大佐は、ユーモアを交えながら、「我々横田基地に住んでいる米軍人として温かいもてなしを受けており、感謝の気持ちを持つという意味で、上品なゲストでありたいと思っています。日米友好が本当に大切であり、それとともに地域との交流・友好が大切であることも理解しています。」旨の挨拶を行った。その後、鏡開き、乾杯、食事・歓談と続き、さらには福生吹奏楽団による演奏で大いに盛り上がり、最後には「手締め」が行われ幕を閉じた。

(源常務理事記)

… 新入会員紹介 …

1 正会員

氏名	住所	氏名	住所
林 富士夫	神奈川県大和市	新 野 修	鎌倉市
藤 井 和 弥	千葉県稲毛区	笠 原 久	入間市
小 鹿 勝 見	狭山市	小 川 剛 義	府中市
林 國 満	柏市		

2 個人賛助会員

氏名	住所	氏名	住所
菅 原 政 雄	神奈川県高座郡	露 木 正 高	品川区
森 住 勉	厚木市		

3 法人賛助会員

法人名	住所	法人名	住所
(有) 幸 邦	羽村市	洩上建設工業(株)	鹿児島県大島郡徳之島町
(有) ヴ ェ ー ル	国立市		

会 員 募 集

今期は関係各位のご努力で正会員7氏、個人賛助会員3氏、法人賛助会員3社の計10氏、3社の入会を得ることができました。今年度の会勢拡張目標を正会員300名、個人賛助会員50名、法人賛助会員50社と定め精力的に活動しておりますが、正会員数が257名とはるかに目標に達しておりません。

今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員の入会につきましては、次のとおりです。

推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接 会員担当の係から連絡させていただきます。

【入会資格】

正 会 員 : 航空自衛隊のOB

個人賛助会員 : 航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

【郵便】〒162-0842 新宿区市谷砂土原町1-2-34 KSKビル3F

日米エアフォース友好協会 会員担当 行

【電話：メール】 宇都宮 靖：横浜ゴム(株) 03-5400-4722 y.utsunomiya@mta.yrc.co.jp

新井 洋一：新東亜交易(株) 03-3286-0339 yo-arai@sda.shintoa.co.jp

鬼塚 恒久：三井生命保険(株) 03-3213-0270 onitsune@w5.dion.ne.jp

正岡富士夫：三菱重工業(株) 03-6716-4319 fujio_masaoka@mhi.co.jp

JAAGA 事務所設置の連絡

このたびJAAGA事務所が設置されることとなりました。つきましては、平成20年3月31日限りで現在の私書箱は閉鎖されます。また、平成20年1月1日から新規に作成する「パンフレット・だより・封筒」の住所はJAAGA事務所としておりますのでよろしくお願いいたします。